

やきもののまち 東美濃を舞台としたアートプロジェクト 「ART in MINO 土から生える2024」 参加アーティストと会場、イベント情報を発表します



高田窯場跡（多治見市）

土から生える実行委員会は、2024年10月18日（金）～11月17日（日）にやきもののまち 東美濃を舞台としたアートプロジェクト「ART in MINO 土から生える2024」を開催。
参加アーティストと展示会場、イベント情報を発表します。

参加作家

伊藤慶二、坂田和實、藤本由紀夫、
小島久弥、安藤雅信、上野雄次、内田鋼一、
森北伸、安藤正子、沓沢佐知子、桑田卓郎、
迎英里子、アオイヤマダ 他

展示会場

高田窯場跡（多治見市）
ギャラリー百草と百草の森（多治見市）
小山富士夫 花の木窯（土岐市）
下石工組 旧釉薬工場（土岐市）
旧地球回廊 軍需工場跡地（瑞浪市）
中島醸造（瑞浪市）

開催概要

イベント名	ART in MINO 土から生える2024
会期	2024年10月18日（金）～11月17日（日）の金・土・日・祝日 16日間
開催時間	10:00～18:00（各会場により異なる）
料金	一般 2,000円 / 学生 1,000円 / 高校生以下 無料
芸術監督	安藤雅信（陶作家/ギャラリー百草 主宰）
監修	高橋綾子（名古屋造形大学 教授）
アドバイザー	森北伸（愛知県立芸術大学 教授）
実行委員長	水野雅文（囃濃代表）
主催	土から生える実行委員会（一社）セラミックバレー協議会
後援	多治見市 瑞浪市 土岐市
HP	https://art-in-mino.jp
Instagram	@from_soil_2024 [https://www.instagram.com/from_soil_2024/]

取材・広報に
関するお問合せ

E-mail : press@art-in-mino.jp（担当：笹田、阿部）
HP : <https://art-in-mino.jp>



ステートメント

アートが果たす産地での役割

芸術監督 安藤雅信

「人新世」という言葉は、産業革命以降、人間中心の経済活動によって地球が新たな年代に入ったと、ノーベル化学賞を受賞したパウル・クルツェンにより名付けられた。21世紀を言祝ぐバラ色の呼び名ではなく、いつまでも人間中心に地球の資源を食い尽くす時代は続かないという警鐘の名であろう。



多治見・土岐・瑞浪市を中心とする美濃窯は1300年の歴史を誇る日本最大の焼物産地で、明治時代にはいち早く工業化に適進し、食器からタイルまで多種の製品を量産して日本の急激な人口増を支えてきた。21世紀となり人口減に転じた日本において各地で産業の見直しを求められているが、美濃窯もその内の一つとなりつつある。デザインは様々な方法で問題解決をするものであるが、アートは時代の枯渇感を表す問題提起の役割を担う。

2008年に催した第一回の「土から生える」展では、山から掘り起こされた粘土を精製し、成形・施釉・焼成する焼物産業の分業制各種の場や陶芸作家の陶房を、瑞浪市・土岐市・多治見市から選び出して作品設置を試みた。山を切り崩した採土場や薄暗い窯場(モロ場)を子供心に負の側面として捉えていたが、焼物の行程や場を活かす作品群は、生産性や時間の中に埋もれ、一見価値がないと思われていた物や場に息吹を与え、五感を通して産地を感じさせる展覧会となった。

あれから16年の間にスウェーデンの若者による環境活動や各国のSDGsへの取り組みなどがあり、歴史から何を学ぶかに関心を持つ人が増えてきた。第二回となる「ART in MINO 土から生える2024」では、土からの派生を念頭に置きつつも、焼物や粘土という窯業の枠に縛られることなく、私たち人間の創成の源となる原初の土まで解釈を広げ、人類が始まる数百万年前から現代までを想像するものにしたと考えて企画した。土の魅力は尽きない。本展とサブイベントを通して人新世のこれからの課題を考えつつ、また今後の窯業と土に可能性を感じ、より親近感を持つものになって欲しいと願っている。

VI(ビジュアルアイデンティティ)について



	Key Color Flame Red R 181 / G 088 / B 052 C 35 / M 87 / Y 79 / K 1
	Base Color Soil Beige R 210 / G 194 / B 177 C 9 / M 17 / Y 23 / K 16

初回08のメッセージ、24の声明文から、今展示は、「人、土、場」の3つの要素が重要だと考え、実際に土で成型した3つのオブジェクトをシンボルマークに設定。

プリミティブでありつつ、不特定多数の人が閲覧するための視認性や、数世代先まで続くことを願う本プロジェクトのための耐久性を意識したタイポグラフィと合わせてVI(ビジュアルアイデンティティ)とする。

人間が初めて土にやきものとして”かたち”を与えた「土器」の焼成温度 600～800度の炎の色をキーカラーに採用。また、やきものの土の色をベースカラーとして展開。やきものにとって必要不可欠な炎と土の色を使用することで、土を起点としたアートプロジェクトとしてのアイデンティティを表現。

取材・広報に
関するお問合せ

E-mail : press@art-in-mino.jp (担当: 笹田、阿部)
HP : <https://art-in-mino.jp>



展示会場

岐阜県東美濃の地で生まれた産業の歴史的価値をアートの側面から伝えていくことで美濃の風土や文化への理解を高めていきます。やきものに関わる場を活用した展示を行います。



高田窯場跡（多治見市）



ギャラリー百草と百草の森（多治見市）



旧地球回廊 軍需工場跡地（瑞浪市）



中島醸造（瑞浪市）



小山富士夫 花の木窯（土岐市）



下石工組 旧釉薬工場（土岐市）

取材・広報に
関するお問合せ

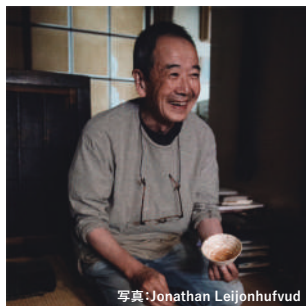
E-mail : press@art-in-mino.jp (担当: 笹田、阿部)
HP : <https://art-in-mino.jp>



参加アーティスト



伊藤慶二



坂田和寛



藤本由紀夫



小島久弥



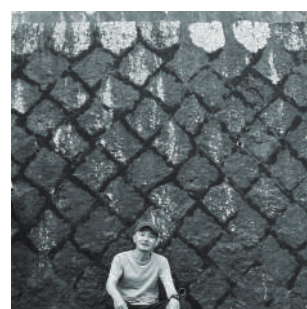
安藤雅信



上野雄次



内田鋼一



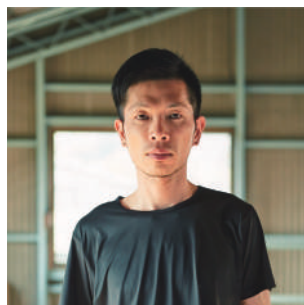
森北伸



安藤正子



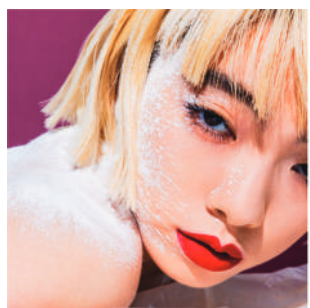
沓沢佐知子



桑田卓郎



迎英里子



アオイヤマダ

【展示会場】 ※変更の可能性あり

高田窯場跡 (多治見市)

ギャラリー百草と百草の森 (多治見市)

小山富士夫 花の木窯 (土岐市)

下石工組 旧薬業工場 (土岐市)

旧地球回廊 軍需工場跡地 (瑞浪市)

中島醸造 (瑞浪市)

- ▶ 小島久弥、桑田卓郎
- ▶ 安藤雅信、内田鋼一、森北伸、安藤正子
- ▶ 伊藤慶二、内田鋼一、藤本由紀夫
- ▶ 伊藤慶二、坂田和寛
- ▶ 上野雄次、迎英里子、アオイヤマダ
- ▶ 沓沢佐知子、安藤雅信、森北伸

取材・広報に
関するお問合せ

E-mail : press@art-in-mino.jp (担当: 笹田、阿部)
HP : <https://art-in-mino.jp>



関連イベント一覧 ※イベントは一部有料、予約制(予約の開始は9月頭を予定)

- 9月14日(土) ART in MINO 土から生える2024 プレ展示 日置哲也、阿曾藍人
～29日(日) 会場:SLOW ART CENTER(名古屋市中区)
- 9月27日(金) 土から生える2008 アーカイブ写真展 山田亘
～10月7日(月) 会場:新町ビル(多治見市)
- 9月27日(金) トークイベント 高橋綾子×山田亘×安藤雅信 | 会場:新町ビル(多治見市)
- 10月18日(金) トークイベント 岡田憲久×上野雄次 | 会場:中島醸造(瑞浪市)
- 10月20日(日) パフォーマンス 上野雄次×アオイヤマダ | 会場:旧地球回廊(瑞浪市)
- 10月25日(金) 内田鋼一「小山富士夫 花の木窯(蛇窯)焼成」
～26日(土) 会場:小山富士夫 花の木窯(土岐市)
- 10月25日(金) トークイベント 沢山遼×高橋綾子 | 会場:THE GROUND MINO(多治見市)
- 11月1日(金) トークイベント 安藤雅信×伊藤達信×花山和也 | 会場:かまや多治見(多治見市)
- 11月2日(土) 朔ドリンクスタンド 日本料理 朔 出店
～4日(月・祝) 会場:中島醸造(瑞浪市)
- 11月3日(日) 土詠茶会 長谷川陽子・沙里・御菓子丸・安藤雅信
～4日(月・祝) 会場:ギャラリー百草(多治見市)
- 11月10日(日) トークイベント 伊藤慶二×岩島利幸×安藤雅信 | 会場:美濃焼ミュージアム(多治見市)
- 11月11日(月) 土窯制作ワークショップ 山本亮平
～17日(日) 会場:百草の森(多治見市)

お問合せ

セラミックバレー協議会 事務局
住所: 岐阜県多治見市東町4-2-5セラミックパーク内(担当:長江)
電話: 0572-28-3200(平日9:00-17:00) / E-mail: info@art-in-mino.jp

取材・広報に 関するお問合せ

E-mail: press@art-in-mino.jp(担当:笹田、阿部)
HP: <https://art-in-mino.jp>

